

「 災害に備えて 」

宮城県 岩沼市立岩沼中学校 3年 岩佐 莉空

お盆休みの直前に、日本の近くでは台風が二つも発生してしまいました。台風が発生すると、大雨や強風の被害が出て、土砂災害など様々な災害が起きかねません。

ニュースでは台風の進路予想や、新幹線、飛行機、高速道路などの運行状況や、混雑状況が報道されていました。勿論、これらの情報も不可欠ですが、私は、台風の影響による土砂災害などの災害情報を、もっと多くの方に知らせるべきだと思ってなりません。その理由は、自分の家に限って被害に遭わないだろう、安全だろう、と思い込んでしまいかねないからです。また、馴染みがない旅先での災害は、自宅周辺での災害よりも、思わぬ被害に遭いやすいことは言うまでもありません。

私の母と祖母は、淡路島北部を震源とする阪神淡路大震災と、三陸沖を震源とする東日本大震災を経験しています。この二つの災害をどちらも経験した人は決して多くはないはずです。

祖母は、阪神淡路大震災が起きたとき、とにかく外はガスのにおいが充満してとても怖かった、火事が至る所で起きていた、恐怖から5日間は安心してお風呂にも入れない状況だったが、不衛生だということを気にする余裕もないほど地震が怖かった、万が一余震が起きた時に備えて常にすぐ出られる格好をしていた、と繰り返し話していました。やがて祖母は、祖父の転勤で移り住んでいた兵庫県から、実家がある宮城県に越すことになりましたが、まさか宮城県でも災害に遭うとは思わなかったはずです。阪神淡路大震災の印象が火災やガスのにおいだったことに対し、東日本大震災の印象は津波だと話していました。母や祖母の話は、目の前で地震が起きているのではないかと錯覚してしまうほど具体的で、自然と災害への意識が高まりました。

東日本大震災では、当時2歳だった私を連れて避難したので、小さい子供がいる中での避難は負担が大きかったと思います。比較的海に近い場所に住んでいたため、母と祖母は高台に避難しようと考え、山の方にあるがんセンターに避難したそうです。山が私たちを津波から守ってくれたことは間違いありません。しかし、私たちが避難したがんセンターに辿り着くまでの道筋は、実は土砂災害警戒区域だったのです。

現在、地震が発生したとき、無意識のうちに地震と津波を繋げてしまう方は多いと思います。しかし、土砂災害は豪雨によって起きるだけでなく、地震によっても起きうるものなのです。地震による強い揺れで地盤が緩むと、普段なら土砂災害が起きると予想されない程の量の雨でも、土砂災害を引き起こす可能性があります。森林は日本の国土の3分の2を占めています。地震が発生したときは、津波が迫ってきていることだけでなく、逃げた先や道中で土砂災害が起きる可能性があるということを忘れてはなりません。

私は、母と祖母の体験から、自分の住む自治体のハザードマップを確認しておくことが大事だと心から思いました。令和5年4月時点で洪水ハザードマップは、98%の市町村で作成が完了しています。ですが、私たちの生活にはあまり浸透していないように思えます。公民館にばかりでなく、自治体が家庭用にハザードマップを配布し、目に見えるところに貼るようにすると、避難場所や避難経路に迷うこともなくなるはずです。災害が発生した時、家族が全員一緒にいるとは限りません。家族で災害が起きた時、どこに避難するか確認し、忘れないようにしておくこと、ハザードマップに関心を持つことなど、今すぐにできる対策はあるはずです。

インフラが整備されている都市部でも起きてしまう都市型斜面災害という土砂災害も近年多くなってきていると知りました。私の住む岩沼市に近い仙台市は杜の都と呼ばれる近代都市ですが、坂道のある住宅街が多く、都市型斜面災害が発生してしまうと、多くの人や家が巻き込まれかねず、心配です。もう私たちには関係ないなどと言われている余裕はありません。

現代の技術では、私たちが災害から逃げることは不可能です。だからこそ十分に備えて、最小限の被害で抑えなければなりません。私は、母と祖母が大きな災害を二つも経験したからこそ、災害は誰にでも何度でも起こりうるものなのだとことを実感したのです。私の住む地域は土砂災害

令和5年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

がまだ起きていませんが、だからこそいつ起こるか分かりません。ですから、カンパンやペットボトルの飲料水、栄養ゼリーなどを常備しておくことが大切なのです。常に災害のことを忘れず、確実に備えておくことこそが私たちの生活を守る鍵になるはずです。